

学習指導と学校図書館

担当教員 望月 道浩

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

司書教諭として、学校図書館をベースとしながら各種メディアを活用した学習指導を計画・実施するための学習論と教育方法について解説するとともに、マイクロ・ティーチングを通して指導方法を実践的に考究するため、以下の事項をねらいとします。

- (1) 教育課程の展開と学校図書館との関連について理解する。
- (2) メディア活用能力育成のための指導内容について理解し、実践できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション「本科目の概要について」
2	学校図書館メディアの意義
3	学習活動と学校図書館
4	メディア活用能力の意義と目的
5	メディア活用能力の指導内容の具体例（1）
6	メディア活用能力の指導内容の具体例（2）
7	メディア活用能力育成の計画
8	メディア活用能力育成の展開
9	メディア活用能力育成に関わる評価
10	レファレンスサービス(1)：内容
11	レファレンスサービス(2)：実際
12	レファレンス資料の整備
13	ネットワークの活用
14	学校図書館活用マイクロ・ティーチング(1)
15	学校図書館活用マイクロ・ティーチング(2)
16	試験

【履修上の注意事項】

- 1) 4月に開催される「学校図書館司書教諭課程オリエンテーション」に必ず参加し、司書教諭科目の取得方法、履修の順序などを確認した上で履修すること。
- 2) 第14-15回に予定しているマイクロ・ティーチングについては、図書館4階学習室で実施する予定である。これについては、あらためて講義内で指示する。
- 2) 出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

【評価方法】

授業への参加度（10%）、授業で課す課題（30%）、及び最終試験又はレポート（60%）によって評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配付します。

【参考文献】

適宜、紹介する。

学校経営と学校図書館

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学校教育全体における学校図書館の位置づけ及び機能について概観する。
そして、学習活動の中での情報やメディアの役割を踏まえた上で、学校及び学校図書館の経営を教育活動の視点からとらえる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：学校教育と学校図書館について
2	学校教育と学校図書館①：意義と理念
3	学校教育と学校図書館②：現状と課題
4	学校教育と学校図書館③：新たな役割
5	学校図書館の制度
6	学校図書館の職員
7	学校図書館の経営①組織・運営
8	学校図書館の経営②施設・設備
9	学校図書館のメディア①：種類と内容
10	学校図書館のメディア②：コレクションの構築
11	学校図書館のメディア③：組織化と提供
12	学校図書館の活動①：基礎的活動
13	学校図書館の活動②：現状
14	学校図書館の評価
15	学校図書館の課題と展望
16	試験

【履修上の注意事項】

出席回数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

【評価方法】

出席状況及び期末試験（またはレポート）による総合的評価とする。

【テキスト】

【参考文献】

「学校経営と学校図書館」同編集委員会編 全国学校図書館協議会 2011（シリーズ学校図書館学1）
「学校図書館・司書教諭講習資料」第6版 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2009

学校図書館メディアの構成

担当教員 一望月 道浩

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は、司書教諭として学校図書館メディアの種類と特性を知り、さらに、よりよい学校図書館メディアを構築するために必要な知識・技能について学ぶことをねらいとする。学校教育における学習環境としての学校図書館は、その整備と運用、維持・管理、そのための適切なメディアの選定と収集および更新が求められる。司書教諭としての実務に求められる技術や知識を念頭に置きつつ、基本的な考え方の理解を図るため、学校図書館メディアの整備に必要な理論と技法について講義を交えつつ一部演習を行う。

【授業の展開計画】

以下の各項を学修の目標とする。

- 1) 学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。
- 2) 学校図書館メディアの組織化の技術・手法を習得することができる（分類・目録、選定基準等、払出し、保存）。
- 3) 学校図書館利活用に資する館内レイアウトの提案ができる。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：授業内容（学校図書館の役割とメディア）、授業の進め方、評価等について
2	メディアの種類と特性(1)：印刷メディア（図書、逐次刊行物、レファレンス資料等）
3	メディアの種類と特性(2)：視聴覚メディア、電子メディア等
4	メディアの種類と特性(3)：特別なニーズに対応したメディア
5	学校図書館メディアの選択：ディア収集方針、メディア選択のためのツール
6	メディアの組織化：目録法解説（目録の意義、目録作業の概要、学校図書館における目録）
7	メディアの組織化：目録法演習(1)（日本目録規則(NCR)を用いた演習を行う）
8	メディアの組織化：目録法演習(2)（日本目録規則(NCR)を用いた演習を行う）
9	メディアの組織化：分類法解説（分類の仕組み・種類、分類作業の概要、学校図書館における分類）
10	メディアの組織化：分類法演習(1)（日本十進分類法(NDC)を用いた演習を行う）
11	メディアの組織化：分類法演習(2)（日本十進分類法(NDC)を用いた演習を行う）
12	メディアの組織化：件名法（件名法の解説と演習）
13	情報ファイルの構築と提供
14	学校図書館メディア構築の実際：払出し（廃棄、除籍）、更新（蔵書点検）
15	学校図書館メディア構築と提供：装備、排架、サイン表示
16	試験

【履修上の注意事項】

- 1) 4月に開催される「学校図書館司書教諭課程オリエンテーション」に必ず参加し、司書教諭科目の取得方法、履修の順序などを確認した上で履修すること。
- 2) 「メディアの組織化」の講義内容にかかわり、図書館4階学習室で授業を行う場合があります。別途講義内でも連絡します。
- 3) 演習課題に取り組むことが多々ありますので、積み残しの無いよう学修してください。

【評価方法】

- (a) 講義内容に関わる小レポート課題 20点
 - (b) 最終試験 100点
- 最終評価は(a)+(b)の評点により判定する。

【テキスト】

適宜プリントを配付します。

【参考文献】

もり・きよし原編『日本十進分類法』（新訂9版）、日本図書館協会、1995
 日本図書館協会編『日本目録規則』（1987年版改訂3版）、日本図書館協会、2006

情報メディアの活用

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

新しい教育内容と方法を踏まえて、学校図書館の資料・情報環境の整備把握し、さらに司書教諭の新しい役割について、より実務レベルで具体的に総括する。

また、情報機器を使用した演習課題を通して、学校図書館における実務的な知識と技能を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：科目内容の説明
2	情報メディアの発達と学校図書館
3	学校でのメディア教育・図書館教育の観点
4	情報社会の学校図書館
5	情報教育と学習指導要領
6	学習活動とインターネット
7	司書教諭の実務的役割 1
8	司書教諭の実務的役割 2
9	司書教諭の実務的役割 3
10	学校図書館資料の各種選択基準
11	教育用ソフトウェアの内容と選定基準
12	学校図書館メディアと著作権 1
13	学校図書館メディアと著作権 2
14	学校図書館関係資料 1
15	学校図書館関係資料 2
16	試験

【履修上の注意事項】

出席回数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

【評価方法】

出席状況及び期末試験（またはレポート及び課題作成・提出状況）による総合的評価とする。

【テキスト】

【参考文献】

『情報メディアの活用』 同編集委員会編 全国学校図書館協議会 2011（シリーズ 学校図書館学5）
「学校図書館・司書教諭講習資料」第6版 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2009

読書と豊かな人間性

担当教員 田名 洋子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代の児童生徒の実態に即した読書教育理念、読書の生活化をはかる方法を解説する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	読書の意義と目的
2	読書と人間形成
3	児童青少年の読書
4	読書環境、読書教育
5	学校図書館の役割
6	発達段階と読書(1)：小学生
7	発達段階と読書(2)：中学生
8	発達段階と読書(3)：高校生
9	資料の種類と特性(1)：絵本、伝承文学、
10	資料の種類と特性(2)：児童文学、文学、伝記
11	資料の種類と特性(3)：ノンフィクション、参考図書、マンガ
12	読書の指導方法(1)：集団的指導
13	読書の指導方法(2)：個人的指導
14	家庭、地域関連施設との連携
15	授業のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。実習的な要素を取り入れるので、人数制限があり、4年生を優先する。

【評価方法】

期末試験、またはレポートと出席日数で総合的に評価する。

【テキスト】

『読書と豊かな人間性』 朝比奈大作 著 樹村房 2002 (司書教諭テキストシリーズ04)

【参考文献】